

行政視察等報告書

令和6年3月7日

長野市議会議長 西 沢 利 一 様

報告者氏名（代表）
中山間地域活性化調査研究特別委員会
委員長 小 泉 栄 正

この度、行政視察をしましたので、その概要について下記のとおり報告いたします。

記

- 1 視察区分 中山間地域活性化調査研究特別委員会行政視察
- 2 視察者氏名 小泉栄正、東方みゆき、藤澤紀子、阿出川希、加藤英夫、小泉一真、野々村博美、和田一成、金沢敦志
- 3 随行者 書記 一之瀬貴
- 4 視察期間 令和6年1月15日（月）～ 1月17日（水）
- 5 視察先及び視察事項

視察先	視察日時	視察事項
愛知県 岡崎市	1月15日 午後2時15分	・農村RMO（岡崎市下山学区地域づくり協議会）について
山口県 岩国市	1月16日 午後2時30分	・集落支援員の活動について ・地域コミュニティ活動の維持に対する施策について
岡山県	1月17日 午前10時	・岡山県のRMOの取組について ・岡山県真庭市吉地区吉縁起村協議会の事例について

6 調査概要

月日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
1/15 (月)	岡崎市	<p>○ 農村RMO（岡崎市下山学区地域づくり協議会）について</p> <p>[概要]</p> <p>◇岡崎市 人口 383,789人（令和5年4月1日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年に旧岡崎市と旧額田町が合併。額田地域は市面積の41.4%を占める中山間地域。市の7割が森林だが、主要産業の農林業が低迷している。 ・令和3年4月、中山間政策課を設置し、中山間地域の振興策を一体的に推進している。 ・令和4年3月、岡崎市中山間地域活性化計画～オクオカイノバージョンプラン2030～策定 ・自治組織（町内会）556、小学校区47。下山学区はその一つ。 <p>◇下山学区地域づくり協議会 トヨタ自動車テストコース造成計画の検討を機につくられた地域組織を核に、令和4年、農村RMO設立</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下山学区の人口590人（令和5年4月1日現在）、高齢化率46.6%、児童数17名（うち2名は学区外から通学）。小規模だが、当地域は、子育て世帯が年1世帯移住すれば地域は持続できると市で試算（子育て世帯だけの移住を進めているわけではない）。 ・4部会に分かれて地域の課題と方向性を議論、活動。 <ul style="list-style-type: none"> ①企画施設運営部会：オクオカ活性化拠点、下山YAMABIKO ②農用地保全部会：「となりの田んぼ」（全5回の稲作体験） ③地域資源活用部会：クアオルト健康ウォーキング事業、青空市の開催、地域の野菜等を使った特産品の試験販売 ④生活支援部会：地域支え合い事業、生活たのみ隊（30分500円から）、小規模特認校制度PR ・市は交付金等の事務等を行い、伴走支援をしている。 <p>[考察]</p> <p>◇岡崎市の取り組みについて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間政策課を設置し、支援体制を強化している。 ・中山間地域の諸課題への対応は、長期的ビジョンと各地域や現場との整合性が重要である。広い中山間地域を有する長野市においても、部局横断型で行うより、岡崎市の中山間政策課のような専門所管を設置することは大変有効ではないか。 ・岡崎市は下山学区の将来人口推計を簡易的に実施し、地域持続につながる移住世帯数を参考として示している。本市でも検討したい。 ・中山間地域を「オクオカ（岡崎市の奥座敷の意味）」と呼び、親しみやすいホームページや印刷物のデザイン、SNSの活用など、広く人々に関心を持ってもらいやすいスタイルは必須と考える。 <p>◇農村RMO（下山学区地域づくり協議会）について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・下山学区の農村RMO設立に際し、協議会の前身として積極

月日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
1/16 (火)	岩国市	<p>的な地域団体があったことが奏功している。トヨタ自動車テストコース建設に関し10年以上の活動経験がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議会で決めた事が住民に届きやすい環境がとても重要だと感じた。 ・中山間地域に対する関係府省等の支援メニュー（内閣府のデジタル田園都市国家構想交付金による小さな拠点づくり、総務省の地域おこし協力隊制度、厚生労働省の重層的支援体制整備事業、農林水産省の農村RMOモデル形成支援事業等）を機能的に活用していることが非常に参考になる。 ・小さな拠点として取り組む各種事業が農村RMOを活用して進められ、国の各種施策を活用している。課題は補助等終了後に継続ができるかどうか。 ・3年期限の補助金が終了した後の組織運営、永続的に組織を存続させるための後継者の発掘・育成はどの地域でも課題である。特に若者や女性を組織の中心に積極的に取り入れる必要があると感じた。 ・中核となる人や組織、拠点となる場所が必要という点が参考になる。 ・高齢化の中、地域おこし協力隊・集落支援員等が参画しているが、事業継続には財源と人材確保の課題があると感じた。 ・地域おこし協力隊のミッション、活動に選択肢を持たせていることが柔軟で参加しやすいと考える。 ・地域おこし協力隊の力は大きなものがある。特に、特定のミッションを与えず、個々に考え行動するフリーミッションであることに驚いた。また、都市部に近いことから、学生ボランティアも多用し、協力者を上手に集め活用していることに感心した。 ・独自のイベント（となりの田んぼ等）を企画し、都市部からの誘客も積極的に行っている。このことにより、多くの関係人口を増加させる効果も期待できるものと思う。 ・学校や子ども食堂、体験プログラムを通して関係人口はあるが、「1年に1世帯移住」の実現可能性が注目される。 <p>○ 集落支援員の活動について ○ 地域コミュニティ活動の維持に対する施策について</p> <p>[概要] ◇岩国市 人口 126,949人（令和5年12月1日現在）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成18年、旧岩国市と7町村が合併。市面積873.67km²の93%以上（旧岩国市の一部及び合併した7町村）が中山間地域 ・自治会連合会8、住民自治組織（単位自治会）約780 ・平成25年、岩国市中山間地域振興施策基本条例制定 ・平成27年、岩国市中山間地域振興基本計画（計画期間～令和4年度） ・令和5年度、第2次岩国市中山間地域振興基本計画（計画期間～令和14年度）

月日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
		<ul style="list-style-type: none"> ・基本計画の4つの柱 <ul style="list-style-type: none"> ①移住・定住、都市部との交流促進による持続可能な地域の形成 ②交流・買い物、医療等日常生活に欠かせない生活環境の確保 ③農林水産業など地域資源を活かした多様な文化・産業の振興 ④「地域づくりは人づくりから」～未来に繋げる人材育成～ <p>◇主な施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中山間地域の主な施策：お助け活動支援事業（お助けグループに補助）、買い物弱者支援事業費補助金（移動販売事業者に補助） ・中山間地域の外部人材（集落支援員6人、地域づくり相談員2人、地域おこし協力隊7人など） ・住民自治組織と協働の地域活動（市全域） <ul style="list-style-type: none"> ①地域ささえ愛交付金（対象経費の9割以内交付、地域住民が自ら実施） ②地域資源活性化事業（行政が地域事情に合わせて実施） <p>[考察]</p> <p>◇岩国市について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩国市は令和3年度の財政力指数が0.56で、過疎地域からの卒業はない。また、基地の町として市街地活性化が図られている。このような中、7つの総合支所・支所が中心となった中山間地域の地域づくり支援が重要なポイントではないか。 ・岩国市は基地関連の補助金があるため、予算に余裕があるという事情があると感じた。単純に比較はできない。 ・中山間地域振興のため、平成25年に「岩国市中山間地域振興施策基本条例」を制定。制定から10年が経過し、見直しの時期であるとのこと。人口減少の進み方が早くなり、時代にマッチしたものを都度考えることが必要である。 ・岩国市中山間地域振興施策基本条例に基づき、毎年取り組みや成果を議会に報告している。この「見える化」は行政、議会、地域や市民の情報共有、連携した取り組みにもプラスになると考え、長野市でも参考にしたい。 <p>◇集落支援員の活動について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この地域は集落支援員の活動が活発であり、各地区に計6名の支援員が活躍している。地域の中心的な立ち位置で、地域をまとめる力になっていると感じた。 ・外部人材として集落支援員、地域づくり相談員、地域おこし協力隊等の活動は良好なようである。ただ、給与や活動費が安すぎるという課題もある。 ・集落支援員の最初の役割は集落点検の実施であるが、地域自治会長等を対象にしたアンケート調査で希望する地区は2割程度で周知不足が否めない。支援員の活用については、受け入れ地域のニーズの把握を丁寧に行うことが必要と感じた。

月日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
1 / 17 (水)	岡山県	<p>また多くの中山間地域を抱える長野市にとってはどのように地域バランスをとっていくかも検討が必要と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・岩国市では集落支援員をハローワークで公募しているとのことだが、地域実情に詳しい内部人材としてのマッチングには留意が必要ではないか。 ・集落支援員には任期を設け、集落の点検と状況把握を速やかに実施し、必要な施策の提言や実施に繋げていくスピード感が必要である。 ・地域が期待するオペレーターとしての役割は集落支援員の本旨と異なる。さらに周知や行政の協力が必須である。 <p>◇ 地域コミュニティ活動の維持に対する施策について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域ささえ愛交付金や地域資源活性化事業は、対象経費の範囲が広く、汎用性が高い。一方で単なる継続事業は対象外とし、創意工夫を求め、活性化策につながると考える。 ・中山間地域お助け活動支援事業は、外部グループ対象とはいえ、主にその集落の出身者が多いとのこと。しかし年1回の制約があり、持続的な支援は難しいのではないかと感じた。 ・買い物支援や移動支援等の生活互助のシステムが特に先進的であると感じた。長野市も中山間地域以外においても買い物難民が心配されるようになった。先進事例を参考に取り組みを考えることも必要と感じた。 <p>○ 岡山県のRMOの取組について</p> <p>○ 岡山県真庭市吉地区吉縁起村協議会の事例について</p> <p>[概要]</p> <p>◇岡山県 県域の75%が中山間地域、県の出先機関が伴走支援</p> <p>◇真庭市 人口42,477人（令和5年2月1日現在） 市域の約8割が森林</p> <ul style="list-style-type: none"> ・真庭市落合振興局 落合地域の70%が森林。地域おこし協力隊8人、集落支援員1人 <p>◇真庭市吉縁起村協議会 実行委員20名（平均年齢64歳）</p> <p>吉地区は人口約150人、高齢化率60%の中山間地域。地域課題を解決すべく、有志15人による地域おこし隊「吉縁起村」を令和元年に始動。売店経営、中山間事務、広報・イベント企画、人材確保、交流・関係人口等の地域おこし事業を実施。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年「岡山県美作国創生公募提案事業」採択。「中山間直接支払い岩坪・林協定」に参画 ・令和4年「農村RMO事業」採択。①地域おこし（吉縁起村）、②農耕地保全等（中山間農業協定）、③住民生活支援（津田コミュ交通）、④鳥獣被害対策（猟友会）に取り組む。無人ストア実証実験（令和5年10月開業）。 <p>[考察]</p> <p>◇ 岡山県のRMOの取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県は伴走支援の役割分担を明確にし、市町村、中間支援組織

月日	視 察 地 (市町村名等)	考 察 (所感、課題、提言等)
		<p>との事業支援スキームを構築している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・所管は農林水産部農村振興課、農村RMOの実施地域へは可能な限り自力で問題解決できるように自立支援を行い、未実施地域へは事業制度の説明から地域全体の合意形成に至るまでをていねいに支援している。 ・都道府県が伴走支援に積極的であることは、市町村にとって財政支援以上に有効である。もっとも必要なのは親身に相談に乗り、地域のコミュニティーをより能動的、活動的に動かすこと。中間支援組織であるNPO法人みんなの集落研究所が果たす役割も大きいと感じた。当県、当市でも農村RMOの活用について、機能的な役割分担の構築が急務と考える。 <p>◇ 岡山県真庭市吉地区吉縁起村協議会の事例について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・吉縁起村協議会は農村RMOのためや補助事業ありきの活動ではない。農村RMOを活用し、活動をより活性化しているとともに、長期計画実現に向けて取り組んでいると感じた。 ・吉縁起村は地域おこし活動を通じ、農村RMOの3つのメニュー（農用地保全、地域資源活用、生活支援）を通常活動の中で実践している。農村RMO形成推進事業を一つの補助金メニューとして、構えることなく自然体で有効活用しており、範とすべき団体であった。 ・上から押し付けられたものでなく、まず住民が立ち上がった。住民の意欲を引き出すのも行政の役割ではないか。 ・会長と副会長の強烈なリーダーシップがあってこそだと感じた。 ・良い実例ではあるが、人材が全てという感想を持った。リーダー的な人材と協力者、女性の参加、住民の参加意識の向上と行政が支援して結果を出している。ただ、事業を牽引するリーダーとグループの存在が不可欠とすると、他地区での事業の応用も同様の人材が必要となり、困難を伴うのではないか。 ・世代継承は、40代もおり法人化も視野に入れている。先の先までみている。 ・女性が働きやすい環境を整備し、誇りを持って楽しみながら働いている。とかく男性中心になりがちだが、地域の宝でもある女性に活動の中心にいてもらうことも大切である。同時に子供やお年寄りも自発的に動けるシステムを構築できれば、さらに活性化するのではないか。 ・この地域にあるものを利用し尽くす思考も見習うべきと感じた。例えば、建物・樹木・地名までしっかり活用している。 ・景観、人材、農産物全てが活性化の基になっている。それこそが地域愛。 ・買い物支援に力を入れている。無人販売の店（スマートストア）の発想は興味を持った。デジタル田園都市国家構想交付金の利用も視野に、これからの過疎地域での新たな買い物の形になるのでは、と可能性を感じた。 ・「無人ストア」は長野市の中山間地でもぜひ導入したい。